



= 知恵絞りのまちづくり =

平成24年夏号

岐阜市議会議員 ♪クラブ青空 和田直也

1 先日「恵那市に財政や防災を学ぶ市民大学が開校へ」との新聞記事がありました。生涯学習の一環として、2013年春に「恵那三学塾」として開校するといひます。これまで生涯学習といえば、趣味や文化を楽しむ講座が中心で、豊かな日常生活を営む場として、あるいは、住民同士のコミュニケーションの場としてのイメージが定着していましたが、今回の市民大学構想では、地域課題を具体的に挙げて学び、修了者には、より実践的に地域のリーダーとしての役割を期待しているとのこと。講師陣も大学教授や行政職員、企業経営者等を揃え、半年を目安としたカリキュラム。県内では初めての試みです。



2 ところで、日本は人口減少・少子高齢化と言われて久しいですが、いわば縮小社会を歩むことが、さまざまな統計データから明らかになっている中で、岐阜市も向こう50年で、いまの42万都市が30万都市へと縮小すると見込まれています。減っていく予算を考えると、もう何でもかんでも…というわけにはいかなくなりました。正に「教育」や「医療」など、予算の選択と集中という考え方が、分野やテーマに限らず、今後は都市の中のどの地域に予算選択と投資をしていくことが持続可能な都市となり得るか、シビアな選択もしていかななくてはならなくなっています。

3 こうした中、昨今叫ばれている「官から民へ」というフレーズは、具体的にどういう社会のことなのか、と自問自答を繰り返

しますと、先ほどの恵那市の市民大学構想は、まさに理に適った試みではないかと注目をしています。と言いますのも「官から民へ」とは、市民が知恵を絞りながら、自律した社会やまちづくりを行っていくというわけですから、そのための知識を積み、絶えず情報収集を続けること、それをサポートする場としての市民大学が趣味や文化の枠を超えて、実践的テーマを前提に創設されるわけですから、まさに市民の時代を象徴していくのではないかと思います。

4 さて、こうして眺めますと、議員という仕事は、ますますその質の向上が求められます。これまでの要望陳情型から脱却し、減っていく予算を前提に、まち全体の未来をどう語るか、時には市民の知恵袋として情報を提供することも求められます。また、多極化する政治情勢の中、多くの意見を調整する「コーディネーター」としての役割も求められるように思います。

5 30代は責任世代。僕も市議会議員として、毎日の市民の皆様からの声を大切にしながら、ひきつづき上記を念頭に置いて、市民の皆様を知恵袋となり得るよう、また具体的な調整役としても出来る最大限を尽くしていきたいと思ひます。

■ 岐阜市議会議員 (クラブ青空) 和田直也

1980 - 岐阜市生まれ (岐阜幼稚園, 木之本小, 本荘中)
 1999 - 県立岐阜商業高校 国際コミュニケーション科
 2006 - 立命館大学大学院 修了 (法学修士)
 会社員を経て
 2007 - 市議会議員 初当選 (14位 / 44議席)
 2011 - 再選 (現在2年生) (1位 / 41議席)
 役職 - 都市活性化対策特別委員長、建設委員

岐阜市がやらなくてははいけないこと

1. 岐阜市は何で食べていくのかを明確化

→ 教育・医療・産業・地産地消立市、岐阜市は既に4つの立市を打ち出しており、これに防災やエネルギーが加わりました。全て大切な分野ですが、都市ビジョンとしては少し多すぎるのではないかと。

2. 県都の優位性を活かす！二重行政の是正

→ 地の利を活かした都市戦略の明示、二重行政の洗い出しと県庁との連携。

3. 無関心は最大の敵！情報発信&共有の推進

→ 情報は発信したからといって受け取ってもらえるかどうかはわからない。わかりやすい情報提供と「解説」が必要。

4. 魅力創出と交通改革による都心回帰の推進

→ 中心部の衰退は不景気だけじゃない。交通改革と公共交通への魅力アップが大切。

5. 地元企業の優れた技術の発掘とモデル化

→ 脱前例主義。事務レベルの意識を改革。

和田の使命感 (僕にできること)

1. 既に示されている「立市」の選択と充実策の提案

→ シティ・セールス強化のための都市ビジョンは、もっと選択する必要があります。政策の実益は何か！住宅政策ともリンクをし「教育」を重点政策に提起します。



2. 「頭脳集積」に向けた政策提案と意見調整

→ 大学研究機関等の誘致活動。
 → 市役所と県庁の「政策調整会議」創設の提案。

3. 勉強会の開催によるアイデア&情報集約

→ 「岐阜市版☆大人の社会見学」で公開視察を実施
 → 「青空ワークショップ」で市民のアイデアを集約
 → 「解説☆広報ぎふ」の定期開催で情報共有を推進

4. 実態の徹底調査と市内外の事例収集や意見調整

→ 現場を徹底調査してデータ化、政策提案へ
 → 魅力ある店舗の誘致と公共交通の魅力創出。

5. 優れた技術の実用化に向けた仕組みの研究と提案

→ 市役所職員を現場へ！企業と行政との橋渡し。

上記のテーマに関連した「議会質問」や「日常活動」を進めます。その経過や結果はHP&SNSで発信！
 + そして毎朝の駅前演説、議会だよりでもお届けします

和田直也

検索

2012 - Vision

！問題意識 いろいろ雑感

■ 連続性のある自転車道、連続性ある点字ブロックの整備を！



→ 道路事情は全国津々浦々違います。そして、その管理者も、国道は国、県道は県、市道は市とそれぞれ異なります。でも、利用者にとっては同じ道路。最近、自転車優先レーンの整備が進んでいます。しかし、どこどこを結ぶレーンなのか、分かりづらいことがいっぱい。点字ブロックについても同じです。道路管理者の連携を促し、線から面へ、利用者に優しい道づくりを促します。

議会基本条例の制定を

■ 誰が賛成したの？誰が反対したの？議案の賛否公開を！



→ 市役所の政策は、どこで誰が決めているのでしょうか。それは市議会において、市議会議員が決めています。でも、何を議論しているのか、誰が賛成・反対しているのか、殆ど伝わっていません。採決に至っては、議員の賛否について記録すらとっていません。これでいいの？議会基本条例を制定し、議会報告会を開催し、議決には説明責任が伴う議会改革を進めます。

大好きな岐阜のまち
 水彩画 和田直也

